

消防団たずね歩き

倒壊家屋からの救出救助訓練

大地震が発生すると、家屋が倒壊して、多くの市民の方が閉じ込められることが予測されます。そのため、消防・警察・自衛隊等がすべての現場へ駆けつけることができない場合があります。一人でも多くの方を助けるためには、地域の住民による救助活動が重要になりますが、知識や資機材がないと、うまく救助できません。

そこで、長田消防団では、ボールや当て木を使用した、倒壊家屋からの人命救出活動方法を地域住民に指導するために、長田消防署で、救助の方法や、住民への指導方法を学びました。

訓練は、8月の暑い日に実施しましたが、多くの団員が熱心に救助方法を学びました。

具体的な救助方法は、ボールを使用し、てこの原理で倒壊した柱等を持ち上げ、そこにくさび形の当て木を差し込んで、空間を少し作り、この作業を数回繰り返すことによって空間を少しずつ広げ、下敷きになった人を救出するというものです。



このボールや当て木は、長田区内の各防災福祉コミュニティに配布されているので、地域住民が救助活動をおこなうにはとても有効な方法です。

訓練では、模擬家屋や人形を使って実施しましたが、多くの団員は、阪神・淡路大震災でこのような状況を経験しており、救出の困難さや、二次災害の危険性も知っているため、緊張感を持ったいい訓練ができたと感じています。

今後は一人でも多くの方にこのような救助方法を知ってもらい、防災の意識を高めてもらいたいと思います。

また、この救助方法を、ビデオでの防災研修等に利用できる動画も現在作成しており、近々インターネットで公開予定です。興味がある方はそちらも見てくださいね。
(長田消防署 藤野聡一郎)



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

